

沖縄島北部山地(やんばる)で主に FIT により採集されたアリヅカムシ —特にシュモクアリヅカムシ属群に注目して—

野村周平

国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.go.jp)

A List of Pselaphine Species from the Northern Mountains (Yanbaru) of Okinawajima Is. in the Ryukyus Mainly Collected by Flight Intercept Traps (FITs), with Special Notes on the Genera *Parapyxidicerus* and *Pyxidicerus* (Staphylinidae, Pselaphinae)

Shûhei NOMURA

Abstract. A list of pselaphine species from the northern mountains (Yanbaru) of Okinawajima Is. in the Ryukyus is present. These specimens were collected by Mr. Kôichi Sugino, mainly by using flight intercept traps (FITs). Special notes on the collected species of the genera *Parapyxidicerus* and *Pyxidicerus* are also given.

1) 緒言

沖縄島北部山地(やんばる)の昆虫相について独自の調査を行っている杉野廣一氏から今回は、衝突板トラップ (FIT) によるアリヅカムシの採集品が多数送られてきた。すべてマウントし、同定したところ、ツルグレン調査などではなかなか多くを採集することのできない、シュモクアリヅカムシ (*Parapyxidicerus*) などの標本が多数含まれていることが分かった。本地域のアリヅカムシ・インベントリーに大いに資する内容であるので、この場を借りて報告する。シュモクアリヅカムシ亜族については、結局杉野氏の採集品から、*Parapyxidicerus* 属 3 種、*Pyxidicerus* 属 2 種の、合計 5 種が見つかった。杉野氏のこのたびの採集は決して網羅的なものではないから、沖縄島内からまだ

さらにこの群の種が見つかる可能性は大いにある。以上を含め、杉野氏の採集品から、27 種のアリヅカムシを検出することができた。以下のそのリストを表示する。

2) 材料と方法

これらのアリヅカムシ標本については、全個体を乾燥標本としてマウントし、各種について、写真を撮影した。また、雄交尾器の観察については、雄個体の尾端をピンセットを用いて解剖し、水酸化カリウム (KOH) 水溶液で処理した上、小型スライドガラス上にカナダバルサムで封入し、観察した。これら標本写真 (図 2, 7) および雄交尾器写真 (図 3) の撮影については、キーエンス社製デジタルマイクロスコープシステム VHX-2000 +



図 1. 沖縄島北部山地におけるアリヅカムシの採集地点と採集方法。A：採集地点。①：国頭村安波；②：同村西銘岳；③：同村佐手；④：同村宇嘉；⑤：同村比地；⑥：大宜味村塩屋富士；⑦：名護市稲嶺；B：主に採集に使用されたものと同形の FIT。

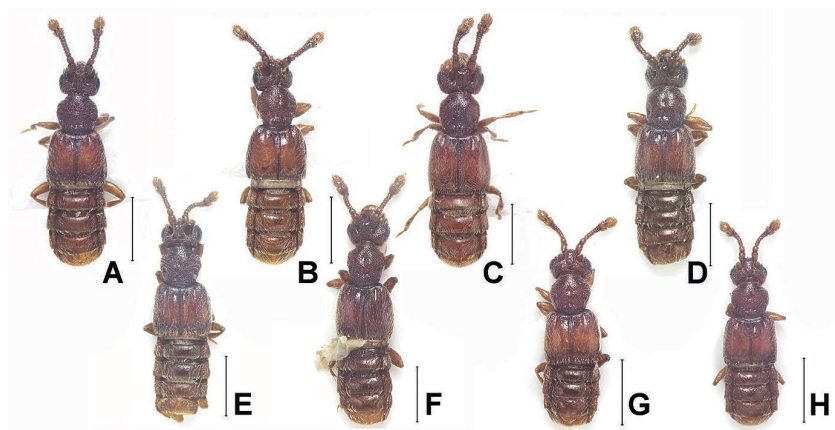


図2. シュモクアリヅカムシ亜族各種♂全形図. A: シュモクアリヅカムシ (福岡県立花山産); B: 同左 (福岡県福岡市産); C: *Parapyxidicerus* sp. (鹿児島県屋久島産); D: *Pp.* sp. 1 (国頭村安波産); E: *Pp.* sp. 2; F: *Pp.* sp. 3; G: *Pyxidicerus* sp. 1; H: *Px.* sp. 2.

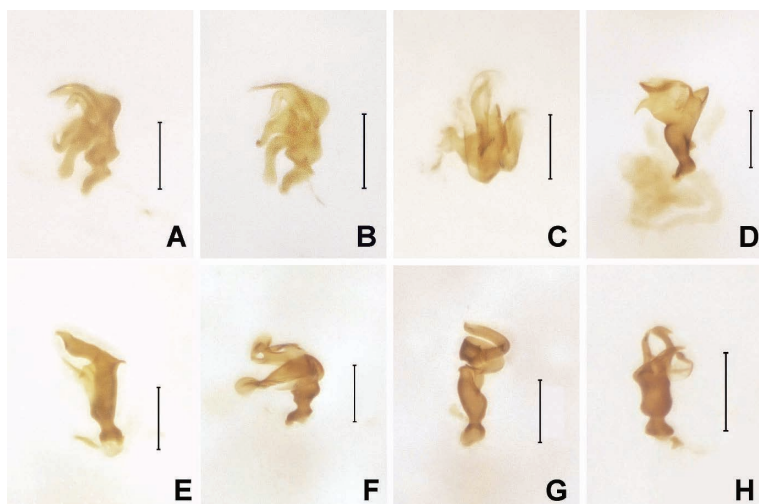


図3. シュモクアリヅカムシ亜族各種♂交尾器. A: シュモクアリヅカムシ (福岡県立花山産); B: 同左 (福岡県福岡市産); C: *Parapyxidicerus* sp. (鹿児島県屋久島産); D: *Pp.* sp. 1 (国頭村安波産); E: *Pp.* sp. 2; F: *Pp.* sp. 3; G: *Pyxidicerus* sp. 1; H: *Px.* sp. 2.

VHX-D510により、簡便な深度合成機能を用いて行った。また、同システムには走査型電子顕微鏡 (SEM) 観察機能があるので、これを用いてSEM観察を行った。図4～6についてはこれによってSEM写真を撮影した。

3) 結果

以下に、杉野氏が採集したやんばる産アリヅカムシのリストを示す。採集者はすべて杉野廣一氏であるので省略する。

ナガアリヅカムシ上族 Euplectitae
Bythinoplectini 族 (註1)
Pyxidicerina 亜族

1. *Parapyxidicerus* sp. 1 (図2D, 3D, 4B, 5B, 6B)

本属は、Sawada (1964) がシュモクアリヅカムシを新属新種として記載した際に創立された属である。タイプ種は同時に記載されたシュモクアリヅカムシ (*P. carinatus*) である (図2A, B, 3A, B, 4A, 5A, 6A)。シュモクアリヅカムシは、本州、四国、九州の日本本土に産し (柴田ほか, 2013)、主に平地～低山地の照葉樹林の林床落葉中から発見される。珍しいものではないが、通常一度に採集される個体数は少ない。

筆者のコレクション中には、シュモクの他に、非常によく似た種 (?) の標本が、屋久島 (図2C)、奄美大島、沖縄島、八重山諸島などからもたらされている。これらがシュモクと同種なのか別種な

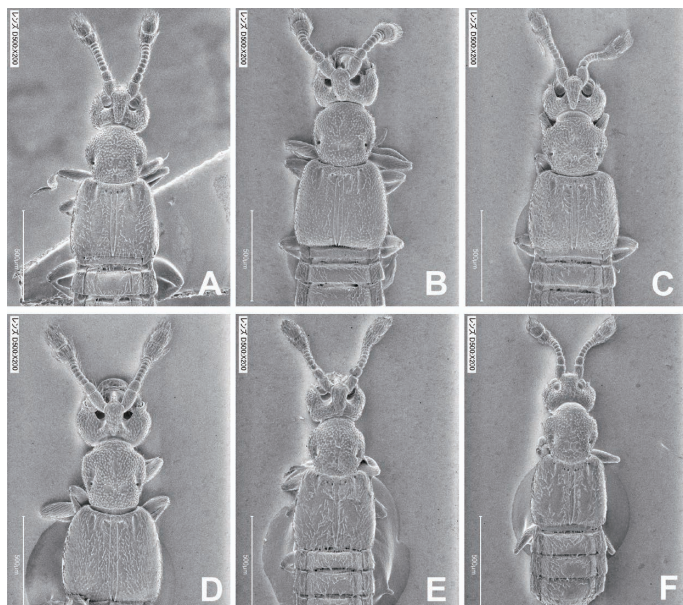


図4. シュモクアリヅカムシ亜族各種の頭胸部 SEM 写真. A: シュモクアリヅカムシ (福岡県産); B: *Parapyxidicerus* sp. 1; C: *Pp.* sp. 2; D: *Pp.* sp. 3; E: *Pyxidicerus* sp. 1; F: *Px.* sp. 2.

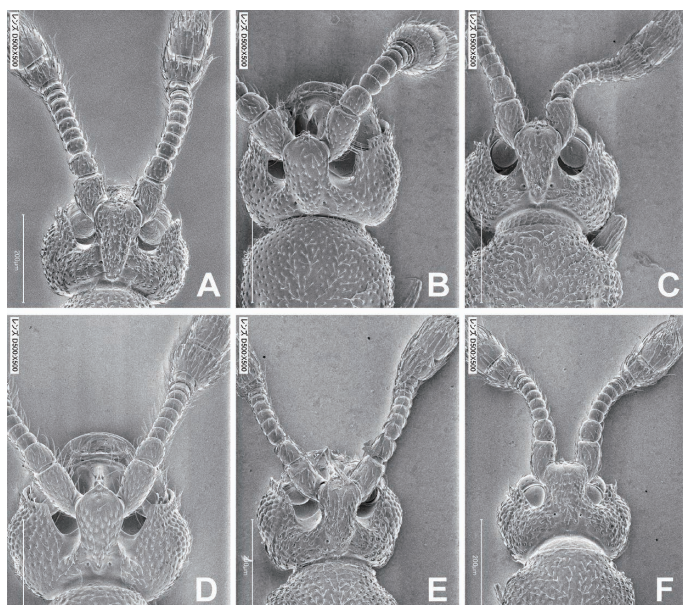


図5. シュモクアリヅカムシ亜族各種の頭部 SEM 写真. A: シュモクアリヅカムシ (福岡県産); B: *Parapyxidicerus* sp. 1; C: *Pp.* sp. 2; D: *Pp.* sp. 3; E: *Pyxidicerus* sp. 1; F: *Px.* sp. 2.

のか、また、本属と近似の *Pyxidicerus* 属とどのような関係にあるのか、未解決のまま、今日に至っていた。

Pyxidicerus 属は世界各地に広く分布し、スリランカなど東南アジア、南アジアからも記載されている。Coulon (1989) がこれら 2 属を含め、世界の Bythinoplectini 族について検討している。それによると、*Parapyxidicerus* 属と *Pyxidicerus* 属は互によく似ているが、次の点で区別されるという。すなわち、*Pyxidicerus* 属は上翅の側縁に縁取りがあり、こ

の縁取りは肩部から後端近くまで連続し、ほぼ完全である。それに対し日本産の *Parapyxidicerus* 属では、この縁取りは上翅の中央より前方で消失する。

この形質を用いて、杉野氏が採集された多数のシュモク類似アリヅカムシを分類したところ、*Parapyxidicerus*, *Pyxidicerus* の双方が見いだされた (図 1D–H)。上翅側縁の縁取りがまったく見られないものもあったが、これは *Parapyxidicerus* と判断すべきものであろう (*P.* sp. 3)。またこれらのアリヅカムシについては、確実な種の識別は♂交尾器を

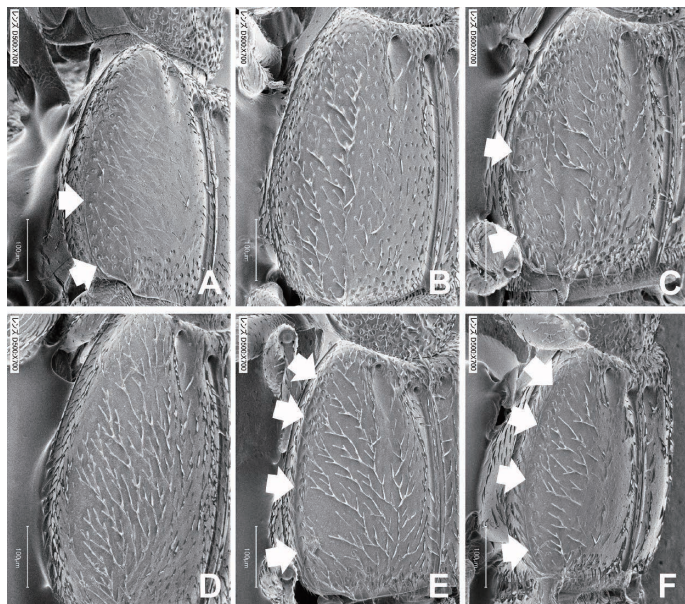


図 6. シュモクアリヅカムシ亜族各種♂上翅左側面 SEM 写真 (側方隆条を白矢印で表示). A: シュモクアリヅカムシ (福岡県産); B: *Parapyxidicerus* sp. 1; C: *Pp.* sp. 2; D: *Pp.* sp. 3; E: *Pyxidicerus* sp. 1; F: *Px.* sp. 2.

検することで可能であることがわかっていて、それで外見上、違いの見られたいいくつかの個体について解剖して、♂交尾器を検してみたところ、外見上の違いがきわめて少ない個体間でも、明確に種の識別ができ、*Parapyxidicerus* 3 種、*Pyxidicerus* 2 種が検出された。この結果わかったことは、これら沖縄島の *Pyxidicerina* 亜族では、外見上の違いで種を識別することは非常に難しく、♂交尾器を検しない限り、確実な同定は不可能ということである。

本種は其中で、外見のサイズや形状は最も中庸で特徴に乏しい (図 1D) が、個体数は多かった。♂交尾器は、シュモクに比べ単純で、先端へ向かって広がり、広がり部分には、両側の側方に突起をそなえる (図 2D)。また、本土産のシュモクアリヅカムシ (図 1A, B) と屋久島産の近似種 (図 1C) の♂交尾器を検したところ、屋久島産のものは明らかにシュモク (図 2A, B) と異なっており (図 2C)、別種であると判断された。

＜採集データ＞ 国頭村安波 (地上 FIT), 8 ♂, 13–16. ix. 2009; 同左, 5 ♂, 1–3. x. 2009; 同左, 7 ♂, 3–11. x. 2009; 同左, 8 ♂, 20–23. x. 2009; 同左, 4 ♂, 23–27. x. 2009; 同左, 3 ♂, 1–8. xi. 2009; 同左, 4 ♂, 26. xi. –2. xii. 2009; 同左, 6 ♂, 8–11. x. 2011; 同左, 3 ♂, 15–18. x. 2011; 同左, 3 ♂, 4–7. xi. 2011; 同左, 2 ♂, 7–11. xi. 2011; 同左, 1 ♂, 4–9. xii. 2011; 同左, 1 ♂, 4–11. iii. 2012; 安波, 1 ♂, 17. vi. 2011; 安波 (FIT), 3 ♂, 12–15. x. 2011; 大宜味村塩谷富士 (地上 FIT), 5 ♂, 11–14. x. 2011; 同左, 5 ♂,

14–17. x. 2011; 同左, 2 ♂, 17–20. x. 2011; 同左, 1 ♂, 20–28. x. 2011; 同左, 6 ♂, 3–8. xi. 2011; 同左, 3 ♂, 21–26. xi. 2011; 塩屋富士, 1 ♂, 28–31. x. 2011.

2. *Parapyxidicerus* sp. 2 (図 2E, 3E, 4C, 5C, 6C)

前種と非常によく似ており、外見だけでの区別はきわめて難しい (図 2E)。♂交尾器は、やや細長い「く」の字形の骨片をそなえ、前種とは明らかに異なる (図 3E)。

＜採集データ＞ 国頭村安波 (地上 FIT), 1 ♂, 13–16. ix. 2009.

3. *Parapyxidicerus* sp. 3 (図 2F, 3F, 4D, 5D, 6D)

前 2 種とよく似るが、やや大型で、頭部がやや平たく丸い特徴がある (図 2F, 5D)。♂交尾器は先端半分が強く屈曲し、二股に分かれる (図 3F)。

＜採集データ＞ 塩屋富士 (地上 FIT), 1 ♂, 3–8. xi. 2011.

4. *Pyxidicerus* sp. 1 (図 2G, 3G, 4E, 5E, 6E)

本種と次種は、上翅側縁の構造から、*Pyxidicerus* 属と判断された。本種は、多数採集された *Parapyxidicerus* sp. 1 に比べてやや小型であるが、はっきり区別できるほどではない (図 2G)。♂交尾器はきわめて特徴的で、先端には長い突起がワインオープナーのようにらせん型に巻いている (図 3G)。

＜採集データ＞ 国頭村安波 (地上 FIT), 8 ♂,

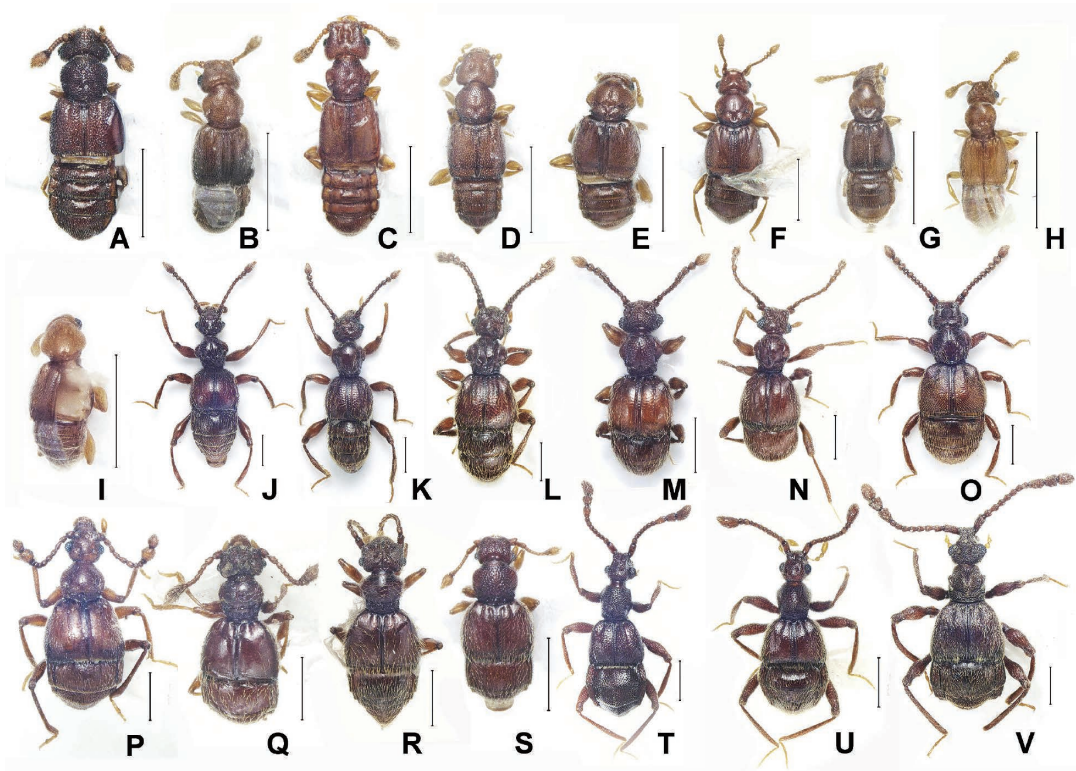


図7. 採集されたアリヅカムシ各種（シュモクアリヅカムシ族を除く）。A: *Nipponozethus* sp. 1; B: *Euplectus* sp. 1; C: *E.* sp. 2; D: *E.* sp. 3; E: *Biblopectus*? sp. 1; F: *B.* sp. 2; G: *Pseudoplectus* sp. 1; H: *P.* sp. 2; I: *Trimum*? sp. 1; J: *Batrisodellus* sp. 1; K: *Batrisoschema* sp. 1; L: カザリムネトゲアリヅカムシ; M: オキナワメダカアリヅカムシ; N: サカイツヤアリヅカムシ; O: *Batrisini*, gen. et sp. undet. 1; P: *Trissemus* sp. 1; Q: オキナワテングアリヅカムシ; R: *Nipponobythus* sp. 1; S: オキナワマメアリヅカムシ; T: *Raphitreus* sp. 1; U: オキナワセダカアリヅカムシ; V: *Pselaphodes* sp. 1.

13–16. ix. 2009; 同左, 1 ♂, 7–11. ix. 2009; 同左, 2 ♂, 13–16. ix. 2009; 同左, 2 ♂, 1–8. xi. 2009; 同左, 1 ♂, 26. xi. –2. xii. 2009; 同左, 1 ♂, 15–18. x. 2011; 大宜味村塩谷富士（地上 FIT）, 1 ♂, 8–11. x. 2011; 同左, 1 ♂, 14–17. x. 2011; 同左, 1 ♂, 17–20. x. 2011; 同左, 1 ♂, 3–8. xi. 2011.

5. *Pyxidicerus* sp. 2 (図 2H, 3H, 4F, 5F, 6F)

前種に極めてよく似ており、外見での区別はつかない（図 2H）。しかし♂交尾器の構造は明らかに異なり、ワインオープナー状の突起はなく、複雑に交差する突起群が観察される（図 3H）。

＜採集データ＞ 塩屋富士（地上 FIT）, 1 ♂, 3–8. xi. 2011.

ヒメシュモクアリヅカムシ亜族 *Bythinoplectina*

6. *Nipponozethus* sp. 1 (図 7A)

本亜族の種は、前亜族とよく似るが、頭部前方の小顎肢窩が前方だけでなく、側方へも開く点、

また多くの種では触角先端の球桿部が、末端の1節のみによって形成される点で区別される。日本からは本属の2既知種が知られるが、他の属が分布することも確認されている。

＜採集データ＞ 国頭村安波（地上 FIT）, 1 ♂, 20–23. x. 2009; 同左, 1 ♂, 23–27. x. 2009; 同左, 1 ♂, 26. xi. –2. xii. 2009.

Euplectini 族

Euplectina 亜族

7. *Euplectus* sp. 1 (図 7B)

本族はナガアリヅカムシ上族 *Euplectitae* の中で、体形が細長く、腹部第8節がそれ以前の節よりも長く、雄の第8腹板（生殖節）が大きく左右に2分されることで区別される。本属の既知種は琉球列島からは記録されていない。

＜採集データ＞ 国頭村安波（地上 FIT）, 1 ♂, 13–16. ix. 2009; 同左, 2 ♂, 20–23. x. 2009; 同左, 1 ♂, 8–11. x. 2011; 同左, 1 ♂, 4–7. xi. 2011.

8. *Euplectus* sp. 2 (図 7C)

<採集データ> 塩屋富士 (地上 FIT), 1 ♂, 8–11. x. 2011; 同左, 1 ♂, 11–14. x. 2011; 同左, 1 ♀, 14–17. x. 2011; 同左, 2 ♀, 17–20. x. 2011; 同左, 2 ♀, 20–28. x. 2011; 同左, 2 ♀, 28–31. x. 2011; 同左, 1 ♀, 3–8. xi. 2011.

9. *Euplectus* sp. 3 (図 7D)

<採集データ> 国頭村安波 (地上 FIT), 1 ♂ 1 ♀, 13–16. ix. 2009; 同左, 1 ♂, 20–23. x. 2009.

Trichonychini 族

Panaphantina 亜族

10. *Biblopectus*? sp. 1 (図 7E)

本属は *Euplectus* 属に似た, ハネカクシ型のアリヅカムシであるが, 腹部第 8 節はそれ以前の節と同等か, それよりも短く, 雄の第 8 腹板は左右に 3 分割されることで区別できる

<採集データ> 国頭村安波 (地上 FIT), 1 ♂, 7–11. ix. 2009; 同左, 2 ♂, 13–16. ix. 2009; 同左, 1 ♀, 20–23. x. 2009; 大宜味村塩屋富士 (地上 FIT), 1 ♂, 8–11. x. 2011.

11. *Biblopectus*? sp. 2 (図 7F)

<採集データ> 国頭村比地 (マレーゼトラップ), 1 ♂, 7–16. ix. 2010

12. *Pseudoplectus* sp. 1 (図 7G)

本属は第 8 腹節の構造は前属に似るが, 体形はより細長く, サイズが格段に小さい.

<採集データ> 国頭村安波 (地上 FIT), 3 ♂, 13–16. ix. 2009; 安波, 1 ♀, 7–12. x. 2011.

13. *Pseudoplectus* sp. 2 (図 7H)

<採集データ> 国頭村安波 (地上 FIT), 2 ♂, 20–23. x. 2009; 同左, 1 ♂, 4–7. xi. 2011.

Triminiina 亜族

14. *Trimium*? sp. 1 (図 7I)

本亜族は触角の球桿部が末端の第 11 節のみから形成されることで, 他の亜族から区別される.

<採集データ> 国頭村安波 (地上 FIT), 1 ♂, 7–11. ix. 2009.

ムネトゲアリヅカムシ上族 Batrisitae

Batrisini 族

Batrisina 亜族

15. *Batrisodellus* sp. 1 (図 7J)

本属は屋久島以北の日本本土から数種が知られているが, 未記載種も多くあり, 好蟻性種も洞窟性種も含まれる, 多様性の非常に高いグループである. 琉球列島にも産するが, 既知種は知られていない.

<採集データ> 国頭村西銘岳, 1 ♀, 8. xi. 2011.

16. *Batrisoschema* sp. 1 (図 7K)

本属は日本本土からクチキムネトゲアリヅカムシ *B. euplectiforme* (Sharp) のみが知られるが, 近似の未記載種が本土にも琉球列島にも多く産する. 今回のように多数の個体が採集される例は珍しい.

<採集データ> 国頭村安波 (地上 FIT), 2 ♂, 7–11. ix. 2009; 同左, 2 ♂, 13–16. ix. 2009; 同左, 1 ♂, 20–23. ix. 2009; 同左, 1 ♂, 1–8. xi. 2009; 同左, 1 ♂, 26. xi. –2. xii. 2009; 大宜味村塩屋富士 (地上 FIT), 1 ♂, 11–14. x. 2011.

17. カザリムネトゲアリヅカムシ *Tribasodites picticornis* Nomura (図 7L)

本種は Nomura (1986) によって, 沖縄島名護岳のアリの巣から採集され, 記載されたが, その後, アリとの関係が明確にされることはなく, それほど緊密な共生関係がないものと思われる. その後野村 (1988) によって, 西表島のシマオオタニワタリ (着生シダの一種) の根際の土壌から発見された.

<採集データ> 国頭村安波 (地上 FIT), 2 ♂, 3–11. x. 2009; 同左, 2 ♂, 20–23. x. 2009; 同左, 1 ♂, 1–8. xi. 2009; 同左, 2 ♂, 4–7. xi. 2011; 同左, 1 ♀, 7–11. xi. 2011; 安波, 2 ♀, 7–12. x. 2011; 安波 (FIT), 1 ♂, 12–15. x. 2011; 大宜味村塩屋富士 (地上 FIT), 1 ♀, 11–14. x. 2011; 名護市稲嶺, 1 ♀, 8. ii. 2012.

18. オキナワメダカアリヅカムシ *Trisinus monostatos* (Nomura) (図 7M)

沖縄島の森林土壌に普通に生息する種であるが, 灯火にもよく飛来し, 個体数が多い (野村, 2015).

<採集データ> 国頭村安波 (地上 FIT), 1 ♂, 7–11. ix. 2009; 同左, 2 ♂, 13–16. ix. 2009; 同左, 1 ♂, 1–3. x. 2009; 同左, 1 ♂, 3–11. x. 2009; 同左, 1 ♂, 20–23. x. 2009; 同左, 3 ♂, 26. xi. –2. xii. 2009; 同左, 1 ♂, 12–15. x. 2009; 同左, 1 ♂, 4–7. xi. 2011; 安波, 2 ♂, 15. v. 2009; 同左, 1 ♂, 17. vi. 2011; 同村比地 (マレーゼトラップ), 1 ♂, 20–30. vii. 2010; 同左, 1 ♂, 30. vii. –8. viii. 2010; 同左, 1 ♂, 17–26. viii. 2010.

19. サカイツヤアリヅカムシ *Batriscenellus* (*Scaioscenellus*) *sakaii* Nomura (図 7N)

本種も沖縄島で、灯火によく飛来する種である(野村, 2015).

＜採集データ＞ 国頭村安波(地上 FIT), 1 ♂, 13–16. ix. 2009; 比地(マレーゼトラップ), 1 ♂, 11–16. vii. 2010; 比地, 2 ♂, 21–28. v. 2011.

20. *Batrisini*, gen. et sp. undet. 1 (図 7O)

本種は中型幅広のアリヅカムシで、やんばる地域だけに特産し、個体数の少ない稀種である。筆者は 1980 年代から本種の存在に気付いていたが、雌個体しか持ち合わせていなかったために、新種としての記載を躊躇していた。本種は好蟻性種であるようで、島田拓氏がインターネット上に生態写真を掲載している。

＜採集データ＞ 国頭村安波(地上 FIT), 1 ♂, 25–29. xi. 2011.

オノヒゲアリヅカムシ上族 *Goniaceritae*

Brachyglutini 族

Brachyglutina 亜族

21. *Trissemus* sp. 1 (図 7P)

沖縄島では森林土壌からもたびたび得られる普通種である。灯火でも採集され、野村(2011)が国頭村内各地から報じている。

＜採集データ＞ 国頭村安波(地上 FIT), 1 ♂, 7–11. ix. 2009; 同左, 1 ♂, 23–27. x. 2009; 同左, 1 ♂, 26. xi. –2. xii. 2009; 安波, 1 ♂, 24. v. 2008; 同左, 1 ♂, 15. v. 2009; 同左, 1 ♂, 4. vii. 2009; 同村宇嘉, 1 ♂, 12. vii. 2010; 同村佐手, 1 ♂, 9. ii. 2012; 同村比地(マレーゼトラップ), 1 ♂, 20–30. vii. 2010; 同左, 1 ♂, 30. vii. –8. viii. 2010; 同左, 1 ♂, 17–26. viii. 2010.

Iniocyphini 族

Natypleurina 亜族

22. オキナワテングアリヅカムシ *Tenguobythus pentagonus* Arai et Nomura (図 7Q)

本属は、雄頭部中央前方に幅広い隆起を持つ一群のアリヅカムシで、国内から 5 種が知られている。

＜採集データ＞ 国頭村安波(地上 FIT), 1 ♂, 13–16. ix. 2009; 安波, 1 ♂, 16. v. 2009.

23. *Nipponobythus* sp. 1 (図 7R)

本属は主に森林土壌や地下浅層に生息し、琉球列島からは既知種は知られていない。野村(2011)が報じた、灯火に飛来した種も本種と同一と思われる。

＜採集データ＞ 国頭村安波(地上 FIT), 1 ♂, 1–3. x. 2009.

24. オキナワマメアリヅカムシ *Morana deigo* Arai (図 7S)

本属もまた、主に森林土壌に生息する小型のアリヅカムシである。Arai (2003) によって日本産種の分類が行われ、奄美以南の琉球からは 7 種が知られている。沖縄島からは、オキナワマメ *M. deigo* とカズヨマメ *M. kazuyoe* の 2 種のみが知られている。

＜採集データ＞ 国頭村安波(地上 FIT), 1 ♂, 13–16. ix. 2009; 同左, 1 ♂, 20–23. x. 2009; 同左, 1 ♂, 7–12. x. 2011; 同左, 1 ♂, 15–18. x. 2011; 大宜味村塩屋富士(地上 FIT), 1 ♂, 11–14. x. 2011.

ヒゲナガアリヅカムシ亜科 *Pselaphitae*

Tmesiphorini 族

25. *Raphitreus* sp. 1 (図 7T)

本属の種として、九州以北の日本本土からは、ヒゲトエクボ *R. speratus* (Sharp) が知られるが、奄美以南の琉球列島に産する本種は未記載である。

＜採集データ＞ 国頭村安波, 1 ♂, 22. v. 2012; 同左, 1 ♂, 22. v. 2012.

26. オキナワセダカアリヅカムシ *Saltisedes kojimai* Yin et Nomura (図 7U)

本属は、日本本土からセダカアリヅカムシ *S. brunneus* Kubota が知られているが、Yin, et al. (2014) によって、石垣島および沖縄島から本種が記載されている。

＜採集データ＞ 大宜味村塩屋富士, 1 ♂, 8. v. 2011.

Tyrini 族

Tyrina 亜族

27. *Pselaphodes* sp. 1 (図 7V)

本属の既知種はまだ日本国内からは知られていないが、本種が *P. sp. 1* として、野村(2011)により、沖縄島から記録されている。本種は土壌中から見つかった例はなく、灯火によるほか、立木のピーティングなどで得られている。

＜採集データ＞ 国頭村安波(地上 FIT), 1 ♂, 20–23. x. 2009; 安波, 3 ♂, 15. v. 2009.

註 1: *Euplectitae* 上族には多数の族、亜族が含まれるが、柴田ほか(2013)によると、族名、亜族名の和名は付けられていない。

考察

今回、杉野廣一氏が沖縄島北部において、主により FIT によって採集したアリヅカムシを分類したところ、27 種が発見された。オキナワメダカアリヅカムシやサカイツヤアリヅカムシのように、灯火でよく採集されているものもあったが、*Batrisini*, gen. & sp. のように、稀産の種もあった。その中で特に注目されるものとして、多数のシュモクアリヅカムシ亜族があった。これらを詳しく分類したところ、日本本土に産するシュモクアリヅカムシと同じ *Parapyxidiceris* 属の未記載種が 3 種、これまでに日本から全く記録のなかった、*Pyxidiceris* 属の未記載種 2 種、合計 5 種が発見された。

謝辞

本稿の作成にあたり、貴重なアリヅカムシ標本の提供をいただいた、沖縄県の杉野廣一氏に心より感謝の意を表す。本研究の一部は科研費新学術領域「生物規範工学」の計画研究「バイオミメティクス・データベース構築」(課題番号: 24120002; 代表者: 野村周平) の助成を受けている。

引用文献

- Arai, S. 2003. A revision of the Japanese species of the genus *Morana* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 9: 187–222.
- Coulon, G., 1989. Révision générique des Bythinoplectini Schauffuss, 1890 (= Pyxidicerini Raffray, 1903, syn. nov.) (Coleoptera, Pselaphidae, Farininae). *Mémoires de la Société Royale Belge d'Entomologie*, 34: 1–282.
- Nomura, S., 1986. Description of two new myrmecophilous species of the family Pselaphidae (Coleoptera) from Japan. *Kontyû*, Tokyo, 54: 498–503.
- 野村周平, 1988. *Tribasodites picticornis* Nomura の新産地とその生息場所. *Pulex*, (76): 374.
- 野村周平, 2011. 沖縄島北部で中瀬式ライトトラップ (NLT) によって採集されたアリヅカムシ. さやばねニューシリーズ, (4): 23–27.
- 野村周平, 2015. 南西諸島で灯火に集まるアリヅカムシ概説 (付・2015 年 6 月に沖縄島で中瀬式ライトトラップによって採集されたアリヅカムシの記録). さやばねニューシリーズ, (20): 17–21.
- Nomura, S., W. Sakchoowong, & J. Chanpaisaeng, 2010. A list of the pselaphine species (Insecta, Coleoptera, Staphylinidae) collected from the Kaeng Krachan National Park, West Thailand. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science*, (A), 36: 7–25.
- Sawada, K., 1964. Two new genera of pselaphid-beetles from Japan. *Entomological Review of Japan*, 17: 11–14.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカシ科総目録. 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69–218.
- Yin, Z.-w., S. Nomura, D. S. Chandler, & L.-Z. Li, 2013. The genus *Saltisedes* (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae): redefinition, synonymic notes, and new species from the Oriental region. *Canadian Entomologists*, 145: 1–11 (doi:10.4039/tce.2012.90).

(2020 年 4 月 2 日受領, 2020 年 6 月 20 日受理)

【短報】千葉県におけるヒメコガシラミズムシ属 3 種の 2000 年以降の記録

ヒメコガシラミズムシ属は、水草や藻類の多く繁茂する水域に生息する小型水生甲虫である (佐藤・吉富, 2018)。千葉県からはマダラコガシラミズムシ *Haliphus sharpi* Wehncke, 1880 (以下、マダラと略記)、カミヤコガシラミズムシ *H. kamiyai* Nakane, 1963 (以下、カミヤと略記)、クビボソコガシラミズムシ *H. japonicus* Sharp, 1873 (以下、クビボソと略記)、キイロコガシラミズムシ *H. eximius* Clark, 1863 (以下、キイロと略記) の 4 種が記録されている (山崎, 1999)。

千葉県環境生活部自然保護課 (2019) では、マダラが重要保護生物 (環境省版レッドリスト基準の絶滅危惧 IB 類相当) に、カミヤ、クビボソ、キイロが最重要保護生物 (環境省版レッドリスト基準の絶滅危惧 IA 類相当) にそれぞれ選定されている。特に最重要保護生物の 3 種は 2000 年以降の具体的なデータを伴う記録が見られない。

筆者らは、2000 年以降にカミヤ、クビボソ、キ

イロを複数箇所では採集しているの、生息環境の概要とともに記録を公表する。なお、採集地名については、湿地の保全の観点から詳細な地名を伏せてアルファベットで記したが、標本に付記したラベルには産地が特定できる地名を明記している。

カミヤコガシラミズムシ *Haliphus kamiyai* Nakane, 1963

本種は環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (2020) において絶滅危惧 IB 類に選定されており、東北南部と関東の一部からのみ知られる稀な種である (中島ら, 2020)。

北野ら (2015) では千葉県の丘陵地にある湿地や休耕田の水生植物が多く水深の浅い場所に生息することが挙げられており、中島ら (2020) では千葉県産の個体が図示されているが、具体的な記録を伴う千葉県内の報告は正田 (1988) による富津市志組が知られるだけである。

今回記録する産地は以下に示す 6 箇所である。いずれも丘陵部に位置し、細流の流れ込みを有する水